

海外旅費理由書

平成29年11月2日から平成29年11月7日の米国ヒューストンへの旅行につきまして、交付申請時には外国旅費行程表へ予定として申請しておりませんでした。下記の理由により急遽旅行する必要が生じました。

理由：従前からの共同研究先であるベイラー医科大学において、年度初頭には開催概要などの詳細が未定であった国際シンポジウム「30th Anniversary symposium」が開催されることとなり、これにあわせて共同研究先の Lupski 教授との共同研究の打ち合わせを行なうこととなったため、急遽本旅行を実施することになりました。

今後は、厚生労働科学研究費補助金取扱規程等を遵守して研究していく所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

難治性疾患等政策研究事業

研究課題名：遺伝性白質疾患の診断・治療・研究システムの構築

研究分担者

研究機関名 国立精神・神経医療研究センター

氏 名 井 上 健

渡航中止理由書

1. 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
2. 研究課題名 遺伝性白質疾患の診断・治療・研究システムの構築（H27-難治等(難)-一般-020）
3. 研究代表者名 小坂 仁
4. 渡航者 宮内 彰彦
5. 渡航先 米国・オーランド
ASHG(The American Society of Human Genetics) 2017 Annual Meeting
6. 渡航期間 平成 29 年 10 月 17 日～平成 29 年 10 月 21 日（5 日間）
7. 渡航中止理由 家族の急病
8. 渡航を中止したことで研究に支障はなかったのか。
支障は生じたが、甲賀・小坂がその役割を担うことで最小限にとどめた。
9. 渡航先である予定だった情報等はどう補ったのか。
発表は行えなかったが、GLIA との連携は甲賀・小坂が話し合いに参加し、担当疾患の
情報は 2 名により分担して収集し、持ち帰った。その情報を元に診療マニュアルの作成を行った。